

Rotary

IMAGINE
ROTARY「変化する時代にこそ、変わらない絆づくりを」
2022～2023年度 ジェニファー・ジョーンズ RI会長テーマ

WEEKLY BULLETIN

2023年3月9日(3448例会)(創立72周年) 呉ロータリークラブ週報 NO.3362

■呉RC 2022～2023年度テーマ 「変化する時代にこそ、変わらない絆づくりを」

会 長 増 岡 真 一
副 会 長 太 刀 掛 祐 之 幹 事 中 崎 誠 会長エクセグ 大 上 功
直前会長 福 田 多 喜 二 会 計 和 田 昭 会場監督 中 河 原 圭 司

(事務局) 〒737-0045 呉市本通4丁目8-12 (例会場) 〒737-0051 呉市中央1丁目1-1 呉阪急ホテル
呉商工会議所ビル南館7階 705号室 ☎(0823)20-1111 FAX(0823)20-1120
☎(0823)24-4411 FAX(0823)21-5692 (例会日時) 毎週木曜日 12:30～13:30
E-mail▶kure3rc@urban.ne.jp HP/URL▶http://www.kurerotaryclub.jp My Rotary▶https://my.rotary.org/ja/user

今週のメインプログラム

【オープン例会】
会員増強・職業分類委員会担当例会
外部講師
「ロータリーって何してるの？」
みんなで見つけて行く「ロータリーの魅力」
国際ロータリー第2710地区
2021-22年度ガバナー 杉川 聡 様

次週のメインプログラム

水と衛生月間
外部講師
独立行政法人 国際協力機構
地球環境部 審議役
兼次長兼水資源グループ長
博士(国際地球学)
松本 重行 様

第3447例会記録【3月2日(木)】

【プログラム】 国際奉仕委員会担当例会

外部講師

「広島県の外国人人材の現状と課題 ―地域の雇用と多文化共生を目指して―」

一般社団法人 グローカル人財ネットワーク 代表理事 尾本 勝昭 様

JICA(国際協力機構)の調査結果(2022.03付 2030年419万人、2040年674万人の労働力不足)を踏まえ、全国と広島県の外国人労働者比較をもとにした現状のご説明とともに支援活動(日本語・生活・就労)による多文化共生の地域づくりという課題解決にむけた取組みの必要性についての貴重な卓話を頂きました。

【出席率】 前々回97.06% 今回78.26%(会員72名・欠席15名・免除3名)

【来客】 外部講師

一般社団法人 グローカル人財ネットワーク 代表理事 尾本 勝昭 様

堀口 勝哉 君・神垣 和典 君の御同伴者 菅波物産株式会社 代表取締役 菅波 好人 様

【他クラブ出席者】 ◇長行事君(2/21 呉南) 寺坂君(3/1 福山ロータリーEクラブ2710) 2名

【欠席者】 ◇岩本・宇都宮(公)・大石・奥原・海生(知)・佐々木・住田・武田(信)・中野・藤井・増岡・八木・山村・和田(昭)・林君 15名

【出席免除者】 ◇宇都宮(五)・奥川・海生(孝)君 3名

【幹事報告】 ◇RI…ROTARY 3月号

◇RI…ロータリーレート 1\$ = 136円へ変更

◇RI日本事務局財団室…財団室ニュース 3月号

◇(公財)ロータリー米山記念奨学会…ハイライトよねやま Vol275

◇RI第2710地区事務局…3月「水と衛生月間」のリソース

◇RI第2710地区事務局 石川ガバナー…ガバナー月信3月号(配付)

◇RI第2710地区石川ガバナー…トルコ・シリア大地震に対する支援について。

◇RI第2710地区2022-23年度地区ローターアクト 板井 代表…国際ローターアクト第46回年次大会本登録のご案内。

【委員会報告】 ◇親睦活動委員会 神垣 和典 委員長…春季家族例会のご案内(配付)

◇ロータリー情報・研修委員会 長行事 義人 委員長…ロータリーの友3月号のご紹介

【S.A.A】 ◇会員誕生日・配偶者誕生日のご紹介

◎ニコニコ基金金額 42,000円(累計金額 1,267,000円)

ゴルフ同好会 3月4日(土) 呉カントリークラブ

優勝:山村 貞夫さん 準優勝:藤井 聖さん 3位 :三木 能章さん

次回開催予定は、4月15日(土) 於:郷原カントリークラブ

魚が住めないほど清らかな話



～歴代会長からの伝言～

島村 充

会長経験者として週報に何か記さねばならない仕儀となり、悩ましい。私はそもそも回顧を語れる者でもましてや成功失敗談を語れる者でもない。けれども依頼は果たさなければならぬので、社会奉仕や国際奉仕、財団などでなくクラブ奉仕について唯今の感想を書いてみます。

ロータリーの良さは人に会えること、その人はおおむね事業経営に直接携わっており、しかも事業を盛んにすることをいつも考えている。こういう人と週に一度、1～2時間ではあるが定期的に会えて、知恵の交換ができる。

こうした集いのシステムは世になかなか無いので、事業について考えたい人にはヒントを授かるチャンスとして有難くかつ得難い場であり時間であると言える。ロータリーの存在意義として、これなら誰でも認めるだろう。

けれども実はロータリーの良さは現在ではこの辺りまでで、その考え方、例えば「最も多く奉仕するものが最も多く報われる」「四つのテスト」など、クラブが創立50年を経た1950年代に、自由主義圏の経営理念を学ぶ集まりでは換骨奪胎され、もはやそれが〈ロータリーが世界に先駆けて発表した発想〉であっても吸収消化されており、痕跡すら判らないことになってしまった。

入会してしばらく経った頃「ロータリーで学ぶことなど何もない」という言葉をあちこちのクラブの先輩からよく聞いたものだ。聞いた当時はそうかな、と半信半疑であったが、学んでゆくうちに、なるほど歴史を見ればそう読めてくる。クラブの在り方としてクラブ奉仕よりも青少年奉仕を含む社会奉仕、社会より国際奉仕、財団とターゲットを移していることがその証左だろう。

故に、ロータリーで自分の事業の理論構築を目指す経営者などいるはずがないことがわかった。そこで…

ではなぜ通うのか？「地域の有能な紳士淑女に出会うため」「地域の最新情報を知るため」「関連事業者の考えを聴くため」等々、遠く近くの願望や要望はあるが、これらはロータリーでなければできないこと、ではない。経団連や経済同友会または商工会議所などに入会参加すればよいのだから。

再度胸に聞く。なぜ通うのか？冒頭に記した人に会うため以外にはない。であれば、クラブ奉仕で最も大切な委員会は親睦活動委員会ということになる。ところが、この委員会の委員長は理事ではない。最も大切な委員会のまとめ役が理事ではないことに、不思議な策略？を感じる。理由は幾らもつけられるのだろうが、ロータリーは西欧の（アメリカ発生の）集まりであり、日本人のように“含み”で組織の運営を計るものではないからか。不思議ではある。